

2025年度 グループホームたんぽぽ

地域連携推進会議 会議録

日 時：2025年11月11日（火）

会 場：グループホームたんぽぽ リビング

対象住居：グループホームたんぽぽ

参 加 者：社会福祉法人愛敬園理事長

社会福祉法人愛敬園法人本部長

グループホーム西宮の沢管理者（報告者）

グループホーム西宮の沢サービス管理責任者（司会進行・報告者）

利用者代表1名

保護者代表1名

地 域 代 表1名

福祉に知見のある方 1名

経営に知見のある方 1名

グループホーム西宮の沢生活支援員 1名（記録）

会議次第

1. 開 会

司会により地域連携推進会議の開会宣言

2. 挨 捶

理事長より、挨拶

～資料の確認～

3. 出席者紹介

時計回りで自己紹介を行う

4. 報 告

（1）地域連携推進会議について

配布資料を使用しながら、地域連携推進会議の目的について説明

(2) グループホーム事業説明

配布資料を使用し、グループホームたんぽぽの事業報告と収支報告

【構成員より】

利用者代表：グループホームの生活は慣れてきた。食事は美味しい。お部屋は快適。エアコンのおかげで過ごしやすい。

経営分野代表：赤字だと事業が継続していくのかが心配になるかもしれないが、新規事業に向けての準備のため、適切な経営運営になっていくのではと思う。北愛館グループ一体での収支を見ているので安心してご家族が過ごせるのではと思う。

(3) 地域とのつながり作り

配布資料を使用し、地域とのつながり作りについて報告

【構成員より】

地域代表：今年は秋祭りが中止になってしまっている。清掃の際には地域の方が多く参加されているので、そういう機会を大切にしてほしい。今年の河川敷の清掃はマダニ発生のため、中止になってしまった。町内会の回覧板を確認して、参加できるものがあれば是非参加していただきたい。町内会の役員が高齢化している。何か事業をするとなると受け入れ体制に不安がある。町内会ではいろいろな取り組みはあるが、どうやって周知していくか？声掛けしていくか悩んでいるところ。地域の中でグループホームがあるよっていうことを教えてもらえるといいなと感じている。町内の仲間のため、お互いに知れるような関係作りができたら良いなと感じる。

(4) 利用者が安心して地域で暮らすための取り組み

配布資料を使用し、利用者が安心して地域で暮らすための取り組みを報告

【構成員より】

保護者代表：30歳までに子どもがグループホームに入居できたら良いなと思っていたが、決まって良かった。今年度は2回程度、家に帰りたいと訴えがあったが、グループホームで安定して過ごせている。たんぽぽに対しては何も不安がなく、職員に任せている。親も子どもも安心して過ごせている。自宅以外にも過ごせる場所が増えて安心している。

福祉分野代表：虐待防止・身体拘束を限りなく0にするためには、勉強会などで理解を深めていくことが大切。内部だけでなく、地域も巻き込んで勉強会などをしてみてはどうか。

ヒヤリハット・事故報告がないというのは、利用者さんにとって分かりや

すい環境が整っているのではないか。

実習生の受け入れ先としてカリキュラムがしっかりしていて、職員育成に反映している事も効果として出ていると思う。

食事アンケートの自由記述は、利用者さんの気持ちを聞き取り出来ており、こちらも権利擁護に繋がる部分ではないでしょうか。

海外の人材は今後回避できない部分である中、採用したい人材をしっかりと採用し育成をしていくことが今後の人材確保に繋がっていく。

地域代表：生活全体が自然体で気軽に挨拶できるような社会がいいなと思っている。人と人の繋がりが大切だなと思っています。

全体を通して

理事長：地域連携推進会議でいただいたご意見を当法人の運営の中で広めていきたいと思っています。

本部長：生活の質を上げるために大切なのは自然なサポートだと思います。全てが法的サービスで賄えるわけではない。いろいろな人が交わることで生活が豊かになっていくのではないか。沢山の人たちに協力を頂きながら豊かな生活を築いていければと思う。

5. 閉会

会議終了後、グループホームたんぽぽの施設見学を行っています。